

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	子どもの家 療育クラブ		公表日	令和7年2月28日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		支援室や園庭など、十分なスペースを確保できている。スペースが広いことで集中の妨げになったり、見届けがでず怪我に繋がることのないよう、現状に合った構造化を図ってきたい。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		職員体制上の理由で受け入れが困難になってしまう事態を招いてしまった。急な体制変更を余儀なくされる場合もあるが、地域の福祉人材が慢性的に不足している現状は今後も続いていくことが予想される。法令を遵守しながら可能な限り受け入れに支障をきたすことのないよう、人材育成や人材確保に努めていきたい。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		発達に合わせた視覚提示やバリアフリー化は整備されているものの、まだ手が行き届いていない改善点はある。今後も点検・改善に努めていきたい。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		清掃が行き届いていない箇所があり、業務分担や点検事項を見直している。整理整頓された空間を作り、活動や支援の妨げにならないように努めていきたい。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		部屋数も多く、発達検査等も実施しているため、個別で使用できる環境を整えている。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		定期的な会議や検討会が実施できていないことが多かったため、毎月の定例会議のスケジュールを年間で計画して実行できるようにする。PDCAサイクルに基づいて着実に改善と実行がなされるように努めていきたい。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者や関係機関等との連携のもと、さまざまなご意見や要望等を把握できるようにしているものの、窓口が一本化されていないことで行き違いや共有漏れが発生してしまうことがあった。窓口を一本化し、必ず記録をとって齟齬がないように見直していきたい。その際は、保護者や関係機関等との共通理解が得られるように丁寧に対応していきたい。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		職員の意見等を把握する機会には設けているものの、意思統一を図りきれない点もあり、業務改善まで繋がっていない点がある。内容によっては職員の迷いや不安に繋がる可能性もあるため、密なコミュニケーションを図りながら業務改善に努めていきたい。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		第三者委員は設置しているが、外部評価の機会は設けていない。事業所単体だけではなく、法人全体のガバナンスを強化しつつ、支援に対する評価を得られる専門家や自己評価に繋げるための外部研修の参加にも努めていきたい。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		事業所として必須となる研修については、年間でスケジュールを組んでおり、職種問わず研修に参加するよう促している。やむを得ず欠席した職員に関しても研修資料等や個別での伝達を通して共通理解を図っている。

適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○	支援の内容や活動内容・流れ等については、法人HPを通して公表しており、在籍世帯についても毎月のお便りを通して活動予定を周知している。	バス送迎を利用する世帯は保護者が事業所に来園する機会が少ないため、お便りや連絡帳以外で活動内容や支援方針を共有する機会が少ない。支援をおこなう上で事業所と家庭との連携が重要であるため、保護者との密なコミュニケーションや連携が図れるような工夫が必要である。
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○	児童発達支援計画を作成する際のアセスメントや支援に関する振り返りを強化していきたい。	ケース検討に関する定例会議を年間で毎月実施できるよう、具体的なスケジュールを計画していきたい。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		児童発達支援管理責任者だけでなく、直接処遇職員とのすり合わせを必ず行い、児童の発達課題や支援の方向性を確認・検討し、児童にとって最善の支援が提供されているかを丁寧に進めていきたい。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		支援計画の共有は図っているが、計画に沿った支援がおこなわれているかのごまめな確認作業まで行き届いていない面がある。グループリーダーに任せきりにならないように、客観性をもった振り返りや見直しを怠ることがないように、努めていきたい。
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○	専門家による標準化されたツールを用いたアセスメントを実施している。	アセスメントで得られた結果をどのように支援計画に反映し、児童との関わりや活動内容に生かしていくかを具体的に検討し、実行にうつしていきたい。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		各項目ごとに支援目標を設定しているものの、児童や家庭の状況に応じた柔軟な対応が必要であるため、どこまで介入すべきか、どのポイントをサポートすることが適切かを判断していく必要がある。具体的な支援内容を明確に提示し、共通理解をもって目標に到達できるよう努めていく必要がある。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		活動プログラムの立案はチームでおこなっているものの、立案して実行した後の振り返りまで見届けられていないことがある。担当はあるものの、PDCAサイクルで定期的な見直しができるよう、チーム体制を強化してより丁寧な支援提供ができるよう努めていきたい。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○	子どもたちが意欲的に活動に取り組める内容を意識している。小集団での遊びを通じた支援を提供しているが、週ごとにアプローチする発達領域を変えたり、達成感がもてる継続性のある遊びを設定する等、工夫している。	
	19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○	小集団での活動を基本として、自由遊びの時間や職員配置を工夫しながら、個別の活動やかかわりを適宜おこなっている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○	グループ毎にリーダーとサブで担当を分け、支援内容や役割分担について事前打ち合わせを実施している。	業務や準備の進め方で十分な打ち合わせや準備ができない場合もある。前日からの準備を整えて、余裕をもった時間配分ができるように役割分担を柔軟に変更したり、滞っている業務を別の職員が補えるように日頃からのコミュニケーションを心がけていきたい。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		活動終了後には必ず振り返りをおこなっているが、連絡帳作成と同時進行で進めないといけない場合も多く、十分な振り返りができないまま翌日を迎えてしまうこともある。その場合に備えて、業務日誌等の記録を共有できるようにするなどして情報共有を補えるように努めていきたい。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		日々の記録は徹底しておこなっている。ただ、記録している内容に濃淡が出てしまうこともあるため、支援の検証や改善に繋がられる情報を適切に記録していけるように方法を模索していきたい。

	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			定期的なモニタリングや支援計画の見直しは適宜おこなっているが、書面での共有など簡素化していることで十分な共有や見直しできていない面がある。可能な限り書面ではなく、児童の状態確認や職員との対話を対面でおこなえるよう、相談支援事業所の協力をもらいながら実施していきたい。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		担当者会議等は児童発達支援管理責任者だけでなく、直接処遇職員も必要に応じて同席するように努めている。同席できない場合も、事前に直接処遇職員との打ち合わせをおこなった上で児童の状態像に関する情報を詳細に共有できるように準備して臨んでいる。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		協力医療機関や教育機関、行政などと連携して支援を実施している。保幼小連絡会などにも参加し、一貫した支援が図れるように努めている。保護者にも地域資源に関する情報などを発信し、安心して支援を受けられるように心がけている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		併行利用や移行にあたっては、バス送迎時や担当者会議等を活用しながら情報共有をおこなったり、相互理解を深めて児童や保護者が安心して支援を受けられるように心がけている。行き違い等が発生しないように、記録は必ず取り、職員間での共有も漏れがないように気を付けている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		就学に際しては、「就学を考える会」を毎年開催し、教育委員会の方にもお越しいただいて保護者に必要な情報を提供している。移行支援シートを通して就学後の適応をサポートできるよう児童の特性や配慮事項に関する情報提供も丁寧におこなっている。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	○ ○			児童発達支援センターとして、地域に向けた連絡会や研修会などの取り組みを地域の現状に即して自治体と連携して進めていきたい。
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	○			受け入れ状況によって外部研修の機会が少ない現状であるが、外部講師や専門家をお招きして指導をいただく機会を作っている。主に法定研修に沿った研修になっているが、支援の質向上に寄与する研修も計画して、幅広い知識や経験を積める機会も作ってきたい。
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	○		子ども支援部会や親子教室、子ども支援センター運営委員会など自治体から要請される会へ参加している。	
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○ ○			
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○		ほとんどが並行通園で保育園や幼稚園に通っている児童のため、日ごろから地域で生活している。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		連絡帳や送迎時に日々の様子や共有事項を伝えあっている。	伝達する事項については、活動の様子だけではなく、支援計画に即した内容や発達課題に関するフィードバックとなっているか、ご家庭での困り感に対するサポートになっどうかを定期的に自主点検していきたい。

	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		小グループでの保護者交流会の実施等はおこなっているが、標準化された支援プログラムに関する研修の実施までには至っていない。在籍保護者だけではなく、地域全体のニーズも踏まえて、児童への支援に寄与する情報提供の機会も設けていきたい。
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○	事業所の方針や利用契約に関する説明は受け入れの段階で児童発達支援管理責任者より説明をおこなっている。	利用開始時には説明をしているが、その後再度確認する機会が少ないため、認識にバラつきが出てしまう現状もある。年1回でも相互に確認しあう機会を設けて、気持ちよく利用していけるように工夫していきたい。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点も踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		保護者の想いに寄り添いつつ、児童の発達状況やその後の教育や生活を長期的に見通した上でこどもの最善の利益を優先できるように適切な情報提供やケースに応じた地域との円滑な連携を図っていきたい。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○	児童発達支援計画を提示し、説明をおこなった上で保護者の同意を得て利用を進めている。支援計画に変更が生じた場合は、その都度支援計画に反映して再度同意を得て進められるように取り組んでいる。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		定期的な面談まで実施できていないが、随時いただく相談の申し入れに関してはその都度チームで迅速に対応できるように努めている。利用に関する理解を図るためにも、定期的な面談も実施できるように取り組んでいきたい。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		保護者会は設けていないが、就学に関して地域の先輩保護者の方に協力いただいて情報提供いただく場を設けたり、年長児を対象にした交流会を設けている。きょうだい同士ではないが、異年齢で交流する行事も設けている。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○	相談の領域に応じた窓口に繋ぎ、申し入れがあった場合は迅速に対応できるように取り組んでいる。相談窓口に関しては、保護者へ周知して適宜対応している。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○	活動内容や行事予定については、事業所からのお便りやHP上のブログ等を活用して発信をおこなっている。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○	個人情報が記載されている書類は、鍵付きのキャビネットで厳重に保管している。書類を破棄する場合も、必ずシュレッダーを用いて処理している。ICTツールを用いた情報管理についてもセキュリティチェックを担当者が定期的実施している。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○	言葉だけでなく、視覚から入力できる絵カードを用いて伝える等の工夫をしている。保護者との意思疎通に関しても復唱しながら意思確認をおこなったり、書面を用いて記録をとりながら確認をとる等して、齟齬がないように配慮している。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○	行事を通して地域との繋がりや交流を図れるように計画している。	療育に通っていることを地域の方に知られたくない方もいらっしゃるため、その点にも配慮しながら計画するようにしている。
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○	各種マニュアルを整備し、避難訓練も計画的に実施している。職員への周知及び保護者にも必要な情報をわかりやすく提示している。親子で登園している保護者には避難訓練にも参加していただいている。	

非常時等の対応	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			業務継続計画を策定して研修を実施し、職員への周知をおこなっている。必要な訓練はまだ十分な実施まで計画できていない面もあるため、今後の事業計画に組み込んでいきたい。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		利用契約の際に細かく確認をおこなっている。緊急時を想定して、担当職員だけではなく、職員間での認識をそろえて対応できるように記録を用いて周知を図って取り組んでいる。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		食物アレルギーのある児童については、医師の指示書を提出いただき、栄養士との連携をもとに給食提供をおこなっている。配膳時にも間違いが起らないように、トレーを分けて提供するなど工夫している。朝礼時にもその日のアレルギー対応について確認をとるように気をつけている。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画を作成し、職員でも周知して点検や研修をおこなっている。点検時に改善や修繕が必要な点を報告・共有を図り、必要な措置がとれるように努めている。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			安全計画に関しては作成済みではあるが、保護者への周知までは至っていないため、年度内に周知を図る予定。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハットが発生した時は、必ず専用ノートに記載して記録をとり、職員で共有している。その日のうちに共有が図れるように終礼の場でも周知をおこなっている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		年1回は必ず虐待に関する研修を実施している。法人内に虐待防止委員会も設置しており、事例が発生した場合は必ず報告し、対応や対策を講じるようにしている。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		重心児については、座位保持にさせる場合があるため、事前に保護者の同意を得ておこなっている。支援計画にも明記して対応している。	